

会議議事録

会議名	2019年度第1回福祉分野教育課程編成委員会
開催日時	2019年7月23日(火) 15:00~17:00 (2.0h)
場所	本校1階会議室
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：入野 豊委員（非営利活動法人大田区介護支援専門員連絡会副理事長）、丸山泰一委員（社会福祉法人池上長寿園事業担当次長兼池上統括事業所長）（計2名）</p> <p>② 本校委員：橋本正樹（校長）、岩上由紀子（介護福祉科学科長）、熊谷 崇（介護福祉科教員） 宮下明久（事務局長）（計4名）</p> <p>③ オブザーバー：中嶋純也（介護福祉科教員）、武石稔弘（医療秘書科教員）（計2名）</p> <p>④ 事務局：松本晋圭、土屋瑠美子（参加者合計10名）</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>① 事前送付：□資料1：2019年度福祉分野教育課程編成委員会名簿、□資料2：2019年度第2回福祉分野教育課程編成委員会議事録、□資料3-1：前回委員会以降の主な経過報告 3-2：2019年度校務分掌、3-3：2019年度学事日程、3-4：2019年度クラス担任一覧、3-5：2018年度就職先一覧、3-6：2019年度2年次「ワセダキャリアサポートプログラム」スケジュール、3-7：2019年度オープンキャンパス日程表、□3-8：第31回介護福祉士国家試験合格の報告 資料4：2019年度重点目標と達成するための計画・方法、□資料5-1：2019年度学科運営計画、□資料5-2：2019年度介護実習の予定、□資料5-3：地域における介護実践への理解を深めるための特別講義等に関する報告 資料5-4：日本語支援講座の概要及び中間報告 資料6：2019年度教員研修計画</p> <p>① 当日配付：□資料5-5：福祉事務管理技能検定廃止への対応について 以下、外部委員のみ配付 実習の手引き（23期生） 2019年度講義要項、□2019年度学生生活ガイド、□2019Challenge 就職活動ノート、□2020年度入学案内書 2020年度募集要項</p>
委員長	橋本校長
議題等	<p>1. 事務局より今年度委員の確認及び本日出席者の紹介（資料1） 事務局より、資料1に基づき委員の確認が行われた。委員会事務局担当に土屋が加わったことについて、報告が行われた。</p> <p>2. 校長挨拶 18歳人口の減により全国的に募集が厳しく、東京の養成施設も定員充足率50%程度という状況である。本校は日本人の募集が厳しい中、よい留学生が来ている。 本年も2回の委員会を予定しているが、施設の方々の外から見たご指摘をいただきたい、との挨拶が行われた。</p> <p>3. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局松本）</p>

前回議事録（資料2）について、修正事項がなければ、質問・回答の氏名及び数値等の一部を削除の上、本校ホームページにアップする旨の発言があり、確認、了承された。

4. 平成30年度第2回委員会以降の活動報告等について（説明者：宮下事務局長、橋本校長、岩上学科長、熊谷教員）

資料3-1～8に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より留年生の状況、国試不合格者の就職への影響、第1段階の実習の様子等について質問、意見があり、担当から説明、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

5. 2019年度の重点目標について（説明者：橋本校長）

資料4に基づき説明が行われ、確認、了承された。

6. 2019年度の学科教育と学科運営について

(1) 平成30年度学科運営計画（説明者：岩上学科長）

資料5-1に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より、カリキュラムの変更と時代の変化、留学生受入れと日本人の学力低下に伴う授業の工夫、福祉事務管理技能検定に代わる検定等について意見があり、担当から説明、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

(2) 平成30年度介護実習の予定（説明者：熊谷教員）

資料5-2に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(3) 地域における介護実践への理解を深めるための特別講義等に関する報告（説明者：熊谷委員）

資料5-3に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(4) 日本語支援講座の概要及び中間報告（説明者：熊谷教員）

資料5-4に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(5) 福祉事務管理技能検定廃止への対応について

当日配付資料5-5に基づき説明が行われ、確認、了承された。なお、代替の検定について意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

7. 教員研修について（説明者：岩上学科長）

資料7に基づき研修計画・実績の説明が行われ、確認、了承された。なお、企業等委員より質問があり、担当から説明、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

8. 次回日程、その他

次回の開催予定を2月27日（木）15時～17時とすることが確認され、閉会した。

以上

2019 年度第 1 回福祉分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 平成 30 年度第 2 回委員会以降の活動報告等について

○宮下事務局長、橋本校長、岩上学科長、熊谷教員より、担当する項目について、資料 3-1～3-8 に基づき平成 30 年度第 2 回委員会以降の経過について以下の報告が行われた。

(1) 就職内定の状況 (資料 3-1)

(2) 在籍状況 (資料 3-1)

○宮下事務局長より、補足説明が行われた。

(3) 2019 年度校務分掌 (資料 3-2)

○橋本校長より、以下の補足説明が行われた。

- ・「校長室」を「企画室」に名称変更し、夜間・休日等を含めた講座の企画・開発を行う。
- ・外国人への対応について協議する留学生教育協議会を設置した。

(4) 2019 年度学事日程 (資料 3-3)

○熊谷教員より、補足説明が行われた。

(5) 2019 年度クラス担任一覧 (資料 3-4)

○岩上学科長より、以下の補足説明が行われた。

- ・1 年担任が中嶋、2 年担任が熊谷となる。

(6) 2018 年度就職先一覧 (資料 3-5)

○岩上学科長より、補足説明が行われた。

(7) 2019 年度 2 年次「ワセダキャリアサポートプログラム」スケジュール (資料 3-6)

○岩上学科長より、以下の補足説明が行われた。

- ・1 年の後期からこのプログラムで動いており、今年度は 7 回目からの実施となる。
- ・5 月に卒業生との懇談会を予定している。

(8) 2019 年度オープンキャンパス日程表 (資料 3-7)

○岩上学科長より、以下の補足説明が行われた。

- ・体験内容は、福祉用具、コミュニケーション、車椅子、食べる仕組みと工夫、認知症である。

(9) 第 31 回介護福祉士国家試験受験の報告

○熊谷教員より、補足説明が行われた。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

①留年生について

質問・意見等	回答等
□留年生の状況はどうか。	□卒業を目指す意思は変わらないので、今、落とした科目を補っている。

②実習について

質問・意見等	回答等
<p>□第1段階の実習の様子はどうだったか。</p> <p>第2段階以降も3～4人のグループで行くか。</p>	<p>□留学生を含め、コミュニケーションの面で困ったことはなかった。書くほうも総合演習、ゼミ、日本語支援講座の三本柱の取組が功を奏し、よく書けているとの評価をいただいた。</p> <p>実習記録が全体的に正しい日本語が使えていなかった。</p> <p>第2段階以降は多くて2人で、1人で行く場合もある。</p>

5. 2019年度の重点目標について（資料4）

○橋本校長より、以下の説明が行われた。

- ・今年度の重点目標は昨年度からの継続となっている。

① TPCの育成と強化

- ・アクティブラーニング等、教え方の工夫により、学生に学ぶことの楽しさを実感させ、自ら積極的、意識的に学ぶ姿勢を身につけさせたい。

② 学び直しの教育プログラムの開発

- ・専門課程以外の教育も視野に入れ、学び直しという方向性を共有する。

③ ビジョンの共有とアクションプランの策定

- ・社会の流れに遅れることなく、先を見て、ベクトルを共有していきたい。

○企業等委員からの質問・意見等は特になかった。

6. 2019年度の学科教育と学科運営について

(1) 2019年度学科運営計画（資料5-1）

○岩上委員より、以下の報告が行われた。

- ・昨年度と大きな変更はない。留学生が増えたことにより目標・計画を一部追加している。

(教育支援活動の目標と具体的な取り組み)

- ・日本人学生と留学生共に理解できる授業を目指していく。→パワポ、映像、絵などを使った見せる授業、見やすい資料の作成などを工夫する。
- ・日本地図を勉強したいとの希望があり、「日本文化論」の中で日本地図のカルタを取り入れた。
- ・日本のことわざを紹介し、意味を伝えている。

(カリキュラム)

- ・介護福祉士養成課程新カリキュラムは、2021年度に実施予定。
- ・「人間関係とコミュニケーション」の時間増への準備はできている。

(留学生)

- ・状況の変化に早期に気付き、適宜面談を実施していく。
- ・日本語支援講座を週1回実施している。

- ・生活面では留学生教育協議会を設置し、日本語学校の先生からアドバイスを受けている。

(検定対応)

- ・介護福祉事務検定が今年度で終了するので、その後の対応について検討している。

(2) 2019年度介護実習の予定 (資料 5-2)

○熊谷教員より、以下の説明が行われた。

- ・介護実習Ⅰは、6月11日から27日までの12日間行った。
- ・在宅介護実習、介護実習Ⅳは、本日から8月23日まで実施する。
- ・介護実習Ⅲは、9月9日から10月15日までの23日間実施する。
- ・介護実習Ⅱは、年明けの2月3日から3月4日までの19日間実施する。

(3) 地域における介護実践への理解を深めるための特別講義等に関する報告 (資料 5-3)

○熊谷教員より、以下の説明が行われた。

- ・事前に介護総合演習Ⅱの授業で概要を学んだ後、実際の見学と特別講義という2段階で実施した。
- ・見学会「障害者福祉における地域移行の実際」は講義と体験を通じて学ぶことができた。
- ・特別講義「地域包括ケアの実際」は地域ケア会議の様子などを学んだ。
- ・特別講義「在宅介護実習オリエンテーション」は在宅介護事業者の方に講師をお願いし、実際の様子を学んでいる。

(4) 日本語支援講座の概要及び中間報告 (資料 5-4)

○熊谷教員より、以下の説明が行われた。

- ・留学生及び日本人学生の日本語能力向上のための支援を目的としているが、対象は主に留学生。
- ・講師は大学院の教授とそのグループをお願いしている。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<p><input type="checkbox"/>カリキュラムの変更は何年に1回か。</p> <p><input type="checkbox"/>学校の場合、中期計画は何年スパンで見ているのか。</p> <p>特養は旧態依然だが、在宅は時代の変化に応じて変わっている。実習に行った学生は差異を受けとめているか。</p> <p><input type="checkbox"/>在宅のほうをたくさんやっているのは、すごいと思う。</p> <p>留学生が増える中で、日本人学生の学力低下やマナーについて、先生方が苦労していることを感じる。日本地図やことわざを取り入れて、働く側も理解や知識を深めていくことが、よりよいケアに通じることが認識できた。</p> <p><input type="checkbox"/>重点目標で言われた自ら学ぶ姿勢は、現場で働く人間も意識していくことが必要と感じた。</p>	<p><input type="checkbox"/>決まっていないが、前は10年前に行われた。</p> <p><input type="checkbox"/>現状は5年だが、変化が激しいので修正が必要になる。</p> <p><input type="checkbox"/>実習は個別の介護技術、支援計画に重点を置いているので、そこまで大きな視点では捉えられていない。</p> <p><input type="checkbox"/>学生の希望も特養から在宅に変わってきている。</p>

(5) 福祉事務管理技能検定廃止への対応について(資料5-5)

○熊谷教員より、以下の説明が行われた。

- ・同検定が受験者の減少により今年度いっぱい廃止されることが決定した。
- ・代替の検定として介護事務管理士、介護報酬請求事務技能検定試験、ケアクラーク技能認定試験を考えているが、受験料や内容が時代に合っているか疑問がある。ご意見をいただければありがたい。

○企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
<p><input type="checkbox"/>介護事務管理士を持っていると、腰痛などで介護の仕事ができなくなったときにつぶしがきく。</p> <p>学生側の負担はどうなのか。</p>	<p><input type="checkbox"/>この検定を受ける目的やメリットを考えると、代替のものを受けるのか、科目だけで置いておくのか悩ましいところである。</p> <p>思っている以上に難しいという声が聞こえて、国家試験本番を迎える前に精神的に心が折れないかという部分はある。</p>

7. 教員研修について

○岩上学科長より、2019年度教員研修計画・実績について以下の報告が行われた。(資料6)

- ・ 6月に、熊谷が「優生思想と人権擁護」の研修に参加した。
- ・ 国際福祉機器展、介養協、上級救命講習会に参加する予定である。

○全体を通して企業等委員からの質問・意見等と回答等は次のとおり。

質問・意見等	回答等
□介護の現場は 50 代以上の人が多く、若い世代がいない。10 年後はどうか深刻な状況であり、悩んでいる。	新カリキュラムの内容は、リーダー層の育成に重きが置かれている部分がある。
教育の現場から介護や福祉の業界の 10 年後はどう見ているか。	仕事をどうつくり、それに向けて人材をどう育てるかを施設・企業等と一緒に考える必要がある。外国人が働きやすい現場をつくるという面でも、どうしたいのかという主体的な視点での検討が不十分だと感じる。
学校の掲示物や教材にルビを振ることについて、どう考えるか。	ポスターや掲示物は、母国語で書いていないと見ない。
	重要なことは、日本語と母国語で並べて表示すると、学習にもなるし、注目されるかもしれない。示し方の問題だと思う。

8. 次回日程、その他

○事務局より丸山委員、入野委員の任期について、3期目も引き続きお願いしたいとの要請があり、両委員ともに承諾された。

○岩上学科長より、次回日程についてお諮りし、2月27日（木）午後3時から5時とすることに決定した。

以上